

旧町名標識 一覧表（あいうえお順）

(1) この表は、明治時代から昭和時代初期にかけての旧町名標識（板状の石材）の一覧表です。

(2) 旧町名や町（「まち」・「ちょう」）の読み方は、平成29年現在使われている町会名に基づいています。

時代や資料により、異なる読み方もありますので、ご了承ください。

(3) 旧町名の読み方で、「まち」を省略して読むことが多いものには、読み方に（ ）を付けています。

例：清水町 しみず（まち）

旧町名	設置場所	目印	説明
逢初町 あいそめちょう	松本市庄内2丁目 3485-5（庄内2丁目1-41）	第二地区公民館から南へ、逢初橋を渡った所にある。	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の外に新たに町々が形成されたが、逢初町もその一つである。この町名は、千鹿頭山から流れ出す逢初川が通っており、また明治の末から藍染めも行われていたことに由来するという。
県町 あがたまち	松本市県3丁目1番1号	あがたの森公園前の歩道	この地には県の宮や県塚の地名、古代の遺跡があるので、筑摩の県があったところと推定されている。大正九年旧制松本高等学校が現在のあがたの森の地に創設された際、町が造られた。町名は筑摩の県に因むものである。
旭町 あさひまち	松本市旭2丁目4番4号	旭町小学校西門前	明治二十二年、和泉町より北に第二線路が開通し、同四十一年にはこの通りの中原地籍東側に、松本五十連隊の兵営が置かれた。町名は軍旗の旭日旗と東方の旭日とををかけて旭町とした。
蟻ヶ崎 ありがさき	松本市蟻ヶ崎1丁目4番44号	こまくさ通りの「蟻ヶ崎」信号から北に進むと、道路左側の三角地にある。	蟻崎の名は中世から見られ、阿礼崎とも表された。「阿礼」は村を表す古語で、「アリ」「アレ」は神が降臨することを意味するという。地名の由来は、盆地を見渡す突端の村という意味から付けられたと考えられる。近世には蟻ヶ崎村であった。
井川（城） いがわ（じょう）	松本市井川城3丁目4060-8	セブンイレブン松本井川城店から西へ進むと、左側に見える。	井は釜など同様に湧水のあるところの地名である。建武年間に信濃守護小笠原貞宗がこの地に構えた館を井川館といたので、地名の起源はそれ以前である。戦国時代まではこの地が信濃國の政治の中心であったが、その後里山辺の林に館が移された。江戸時代には庄内組小島村とよばれた。
出川町 いでがわまち	松本市出川町 1740番地1	出川公民館前	当地域には弥生時代から中世に至る遺跡があり、その歴史は古い。中世までは高原瀬と言われていたが、地下水が豊かな湧泉地帯であり、小川が無数に流れ出ているので、出河川（でがわ）、後に出川（いでがわ）と呼ばれるようになったと伝えられる。町名は出河川里～出河川村～出川町～出川町村～出川町などと変遷した。
今町 いままち	松本市大手1丁目433	女鳥羽川沿い、セブンイレブン今町店の前	今町は、江戸時代中頃に成立したといわれ、白板村に属していた。城下町割の外であったが、松本城下と越後の糸川を結ぶ国道（街道）の起点に近く、その名は「村落なれども現今は町」を意味するという。

埋橋 うずはし	松本市埋橋2丁目 11番4号	埋橋公民館の前	古代の埴（土器）が埋蔵されていたことから、埋墳が転訛して埋橋になったという。地名の起りは古く中世にも埋橋郷があり、また天正検地帳には埋橋村が記載されている。町名はこの埋橋村を継承したものである。
梅ヶ枝町 うめがえちょう	松本市深志3丁目 1023-2	相澤病院から深志神社に抜ける道で、西側を見ていくとある。	長沢町から大正八年に開設された長野県工業試験場正門までの道筋にそう町名である。この辺りは菅原道真（菅公）を祭る深志神社の宮本であるので、梅を愛でた道真に因んで梅ヶ枝町と命名した。
折井町 おりいちょう	松本市大手1丁目 393-21	再開発住宅敷地内	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。折井町もそのひとつである。その名の由来は、この町が、白板町にあった折井氏の所有地に新たにできたことによる。
開智町 かいちまち	松本市中央1丁目 114 先（中央1丁目18番1号）	Mウイング東側歩道	明治五年の学制発布をうけて翌同六年女鳥羽川沿いにあり、廃仏毀釈で廃寺となっていた戸田家の菩提寺全久院の建物を利用して旧開智学校が開校された。明治九年には、この地に文明開化の象徴である擬洋風建築の旧開智学校が建築された。その西側にあった数戸の商家を旧開智学校にちなみ、開智町と称した。
金山町 かなやまちょう	松本市県1丁目 1498-4	カタクラモール東側道路の歩道	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たな町々が形成されたが、金山町もその一つである。この町名は、火の神様で鍛冶職等が崇敬する金山様という社があることによってこの名がつけられた。
鎌田 かまだ	松本市鎌田1丁目 13番33号	国道19号「鎌田南」信号を東へ進むと、右手に見えてくる。武田内科医院の前。	「かま」とは水の湧き出る釜状になった地形をいい、鎌田は湧水地帯の水田の意味である。かつてこの地には権現の池という大きな沼があり、龍神が棲んでいて、人寄せの時に椀膳を貸してくれるように祈れば借りられたという伝承があった。この地は中世は井川城の城下町であり、また江戸時代は庄内組鎌田村であった。
神田 かんだ	松本市神田1-37-9	神田公民館入口	神田の地名は室町時代にさかのぼる。神田村は戦国期から江戸時代を経て、明治七年中山村の一部になるまで続き、その後昭和十八年に松本市に分離合併した。地名の由来は千鹿頭山の頂上にある千鹿頭神社の神の田によるという説が有力である。
源地 げんち	松本市中央3丁目 1290-1	瑞松寺の北東側道路カド	ここは中世のころ、信濃守護小笠原氏の家臣で、号を玄智といった河辺縫殿助の屋敷があった。その屋敷跡に玄智の号に因む「玄智の井戸」があり、「当国第一の名水」として知られていた。歴代の城主は「殊勝の水」として制札を掲げてこれを保護し、藩主の用をはじめ、城下町の飲み水や、酒造用水にも使われていたので、水源という意味も加味して源地とした。
国府町 こくぶちょう	松本市中央2丁目 1番1号	駅前通り「国府町」信号の北東側カド	明治三十五年篠ノ井線が開通し、松本駅が松本町の玄関になると、それに相応しい町名として、かつてこの地が信濃国の府中として栄えていたように、松本町の繁栄を願って国府町と命名された。

五條町 ごじょうまち	松本市本庄1丁目 907	ホテルブエナビスタの北にある松本駅前記念公園の南西カド	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、五條町もその一つである。この町名は、西五町に交差し中条に通ずる町ということで、この名がつけられた。
蚕玉町 こだまちょう	松本市中央4丁目 1240-1	やまびこ道路の「サイゼリヤ」前、太玉乃神（おたまのかみ）祠の横	大正三年、この地に大日本一代交配蚕種普及団が設立され、その周辺に町が形成された。町名も蚕に因んで命名された。また近くには往古から泉があり、思兼乃神と太玉乃神が祀られていたが、元禄年間に薄川の氾濫で流失した。その後太玉乃神の祠が再興されて、池を「お玉の池」と呼ぶようになった。
駒町 こまちょう	松本市城西1丁目 181-17	大手一丁目信号から新橋に向かう一方通行路を進み、右側を見ていくと、お堂の前にある。	この地域は、近世には宮淵村、蟻ヶ崎村に属していた。町名の由来は、水野家の家臣鈴木伊織が「貞享義民騒動」の指導者多田加助の助命の特使として江戸より早馬でこの辺まで来たが、精つき駒の足が折れ、処刑の時刻に間に合わなかった。この駒を祀ったことによると言われている。
幸町 さいわいちょう	松本市埋橋1丁目 944-1	石井味噌の駐車場入口	旧源池小学校から中林橋までの南北に長い町で、大正十一年長沢町から分離して新しくできた町である。町名は、この地の開発に貢献した石井祐助氏が父親幸正氏に因んでその一字をとり、また地域の人々の未長い「しあわせ」を願う意味も込めて幸町と名付けられた。
栄町 さかえちょう	松本市本庄2丁目 771-4 相澤病院 駐車場前	相澤病院駐車場前、開道記念碑の横。	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが栄町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。
桜町 さくらまち	松本市女鳥羽1丁目 5番24号	桜町公民館前	女鳥羽川右岸には、明治末ころから堤防際に民家が建ち始め、この頃から清水橋北の堤上に桜が植えられたので、地域の人々は桜町と呼ぶようになった。その後市勢の発展にともない、町の地域も広がったので、町会では、桜町を正式町名として大正五年十二月に市役所に願い出て、正式な町名になった。
笹部 ささべ	松本市笹部1丁目 817-1	バス停「笹部」東側、歩道植え込み内	この地域は、江戸時代から明治のはじめまで、笹部新田村または笹部村であった。地名の起りは古代の豪族の姓（かばね） - 称号 - の一つ雀部（ささきべ）で、笹部と変化したとも伝えられる。
沢村 さわむら	松本市沢村1丁目 1721-1（沢村1丁目4番13号付近）	フレマリール（アパート）駐車場前	岡田矢諸の諸窪に古くからある普門院という古刹の大門脇を流れる川を大門沢川と呼び、その下には大門池もあった。大門沢川に沿った地域を大門沢川にちなみ、沢村と称した。
三才 さんざい	松本市筑摩3丁目 3313	重要文化財若宮八幡社の入口	町名の由来は、古代、優れた三人の才能のある人物が諸災害を治めたことによるとの説、筑摩郡に国府があったことから、風の祝（台風を治める神職）がこの地において、三年ずつで交替したこと、三歳ずつによるとの説、さらに御射（みさ）の神事の地によるとの説がある。三才には天道、地道、人道、天地間の宇宙萬物の意がある。

清水町 しみず(まち)	松本市清水1丁目 1456-2	清水西公民館 隣、槻井泉神社 入口	槻井泉神社の湧水は、古来より清冽な清水として都にも知られ、和歌にも詠まれた。町名は、この名水清水に因むもので、江戸時代の末頃には、清水村ができていた。ここは松本市の史跡であり、境内の大樺は、同天然記念物に指定されている。
松栄町 しょうえいちょう	松本市大手2丁目 311-34	「大手一丁目」 信号交差点から 東に行くと、南 側歩道にある。 松本城西郵便局 の向かい側。	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。松栄町もそのひとつである。松本の地名に因み常盤の松の緑にあやかって栄える願いが込められている。
庄内町 しょうないちょう	松本市庄内2丁目 6番47号	庄内町公民館入 口、「庄内町」 信号近く	八百年も以前に栄えた捧の庄という庄園のうちというのがこの地名の起こりと考えられる。庄園時代の名残りを伝えた地名である。この地名は、江戸時代には薄川の下流域に広がった庄内村に、また庄内村を含む十五ヶ村から成る庄内組へと引き継がれてきた。
白板 しらいた	松本市白板1丁目 3番7号	折井クリニック の南側、子育て 地蔵堂の前	白板の地名は戦国期にさかのぼり、開田を意味するといわれる。また松本城天守築城の際、この地を用材を製材した白木板の置場としたのが、その由来とする説もある。天保三年に開通した犀川通船は、この地を船着場として、明治三十五年の篠ノ井線開通後まで続いた。
城西町 しるにしちょう	松本市城西1丁目 6番23号	大手一丁目信号 から新橋に向か う一方通行路を 進み、左側を見 ていくと、祠の 脇に立っている。	この地域は、近世には大部分が蟻ヶ崎村に属していたが、明治以降、旧城下町の周辺に新しい町がつくられた。城西町もその一つで、松本城の西側にあるので、この名がつけられた。
新伊勢町 しんいせまち	松本市深志1丁目 786	藤屋(菓子屋) の前の植込み	明治三十五年篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅から伊勢町や本町方面につながる通りとして新伊勢町がつくられた。町名は松本駅から伊勢町に通じる新しい町という意味である。
新田町 しんたまち	松本市開智2丁目 3番39号	城北公民館の前	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。新田町もそのひとつである。明治二年に江戸定府藩士(江戸屋敷詰の武士)の帰国にともない、その屋敷として、新たに田町の西にできたので、新田町と命名された。
神明町 しんめいちょう	松本市中央1丁目 6番	神明社の前。 「国府町」の碑 の北側30mほど	伊勢町通りの中ほどに神明小路があり、その奥に神明宮が祀られていた。明治三十五年松本駅が開設され、そこから東へ、市内中心部を結ぶ通りとして神明町がつくられた。町名は神明宮に因む。
新家町 しんやまち	松本市庄内1丁目 1番21号	新家町公民館の 前	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たな町々が形成されたが、新家町もそのひとつである。この地域は、江戸時代は小島村の中にあった。大正十四年の旧松本村合併時に新家町として誕生した。

末広町 すえひろちょう	松本市本庄2丁目 747-1	第二地区公民館 の前	この地域は、明治時代になって川の名前に因んで長沢町といったが、大正三年四月に区長制がしかれると、長沢町は七区に分けられた。町名の由来は、町の形が西方が狭く東方に行くに従い扇形に広がっているため、末広の扇に因んで、町の発展の願いを込めて末広町と命名された。
征矢野 そやの	松本市征矢野2丁目 5338-1	征矢野公民館前	征矢野の地名は、古代に信濃國から朝廷に梓弓が献上されたが、その弓に用いられた征討の矢（征矢）がこの地でつくられたという伝承による。中世には信濃守護小笠原氏の居館が井川にあり、この辺りにも町割りがあったといわれる。近世には庄内組征矢野村とよばれた。
高宮 たかみや	松本市高宮中93 番4号	高宮郵便局向い	この地域は、寛永年間（一六三三ころ）に鎌田村から分村し、明治のはじめまで高宮新田村といった。地名の由来は、この地が出川町に祀られている多賀神社（多賀宮）の入口にあたることから、その社名によるといわれている。
竹平町 たけひらちょう	松本市本庄2丁目 6番7号	相澤病院前から 北へ入る。 「梅ヶ枝町」の 碑がある通りの 一本西の通り。	大正十一年に長沢町が七区に分かれ、七町が成立した際に、自ら所有する土地を提供して町づくりに貢献した竹内愛人氏に因み、竹内家の中興の祖である氏の祖父の平米氏の姓名の各一字をとって、竹平町とした。また同じころ成立した常盤町・若松町の松、梅ヶ枝町の梅に竹が揃うと、松竹梅の縁起に因むめでたい町名になることも加味されている。
筑摩 つかま	松本市筑摩2丁目 2968-2	筑摩神社遊園地 （筑摩神社の西 側）の前	古くは東間・豆加万などと書かれていたが、和銅六年（七一三）好字令という朝廷の命令により筑摩となった。明治四年筑摩県が置かれてから「ちくま」となり、古代からの呼称「つかま」を伝えているのはこの地のみである。筑摩東は昭和三十年頃神社東の地域に生まれた。
常盤町 ときわちょう	松本市深志3丁目 1046-7	駅前通りの「深 志三丁目」信号 から南へ行く と、左手に見え てくる。（精美 堂印刷の前）	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その際この地は、松本の松に因んで常に変わらぬ常盤の松をイメージして永久不変を願って常盤町と命名された。
巴町 ともえちょう	松本市城西1丁目 103-5	北松本駅から東 へ歩き、交差点 「巴町」北東カ ド	この地域は、近世には蟻ヶ崎村、白板村に属していた。大正の始め、信濃鉄道（現大糸線）の開通に合わせて市街地へのアクセス道路として開道された。町名の由来は、白板、今町、城西町と三巴になっていたことによる。
豊倉町 とよくらまち	松本市女鳥羽2丁目 2497-4	女鳥羽公園内	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。岡宮神社の宮前の豊倉町もそのひとつで、町名の由来は、吉字を選んで命名したものと伝えられる。
豊田町 とよたまち	松本市庄内3丁目 1464-72付近	田川沿い、豊川 稲荷・秋葉神社 敷地の隣に建っ ている。	善光寺街道沿いのこの辺り一帯は、松本村大字出川字豊田であった。大正十四年の旧松本村合併の際に、豊田町として誕生した。町名の由来は古名「樋田」から来ているという。「樋田」と呼ばれた場所は、樋を使用して堰から水を引く田を指した。明治以後、好字をあてて「豊田」とした。

長沢町 ながさわちょう	松本市深志3丁目 1025-3	深志神社の南西 沿いにある駐車 場	深志神社の南、長沢川にそったあたりは晒屋と呼ばれていたが、明治四十年市町村制施行にともなって筑摩村の一部が松本市に合併したのを機に長沢区とした。その後博労町東裏に、大正七年に筑摩部が開校、同八年に長野県工業試験所が開業した際に、町割りが行われ、常盤町・錦町・梅ヶ枝町・栄町などができ、長沢町はその一地域の町名となった。
中条 なかじょう	松本市中条10番1 号	中条橋の北側に ある駐車場の 前。ナカツタヤ の近く。	この地域は、平安時代から鎌倉時代にかけて置かれていた捧庄の中心地域にあたり、捧中村（条）と呼ばれていた。戦後の宅地化が進むまでは、一帯は整然と区画された水田が広がり条里的遺構もしのばれ、歴史的にも由緒ある景観を止めていた。地名の由来も捧庄中村の地名を今日に伝える由緒あるものである。
中林 なかばやし	松本市筑摩2丁目 3408-5	中林神社の前	中林は江戸期から明治八年筑摩村の一部となるまで村として続いた。古く山辺の林部落と筑摩の中間にあったのでこの名がついたが、薄川の氾らんをさけてこの地へ移転したものと伝えられる。
中原町 なかはらまち	松本市桐2丁目2 番25号	ほっともっと松 本桐店駐車場	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。中原町もそのひとつである。その名の由来は、旧集落名による。原名は歌枕名所の「浅葉野」に関係するといわれている。
渚 なぎさ	松本市渚3丁目 543-1	田川公民館の前	渚の地名は、奈良井川、田川、穴田川、大門沢川などが流れ、絶えず水がただよう場所であったことに由来するという。近世は庄内組渚村で、村を東西に横切る飛騨街道は、松本城下の伊勢町口から野麦峠を越えて高山に至り、飛騨の木材や飛騨鯉などが運ばれてきた。
渚内城 なぎさうちしろ	松本市渚2丁目4 番3号	常德寺の前	この地域は、近世は庄内組渚村であった。村の中央には渚城の跡があり、それが地名の由来と考えられる。この城は、中世、応永七年（一四〇〇）に信濃の守護小笠原長秀が大塔合戦に敗北後、館を築き隠棲したと伝えられている。天文十一年（一五四二）当地に小笠原長時により常德寺が開創された。
並柳 なみやなぎ	松本市並柳3丁目 71番2号	並柳公民館前	中世鎌倉期から戦国期の並柳郷にさかのぼる地名。江戸期から明治期にかけては村名となり、現在の町名に至る。かつてこの地に湖がありその水辺に柳が繁茂していたことによりその名がついたと伝えられる。
西河岸 にしかし	松本市本庄1丁目 907	ホテルブエナビ スタの北にある 松本駅前記念公 園の北側	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西河岸もその一つである。この町名は、旧城下町の本町、博労町から西に、長沢川沿いに形づくられたためこの名がつけられたと推測される。昭和初期にはこの界隈は南部市場とあって、食品、野菜などありとあらゆる物を売る市が日を定めてたっていた。
錦町 にしきちょう	松本市深志3丁目 5番23号	「常盤町」の碑 のある通りの一 本東側の通り にある。「中沢 ビル」前。	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが錦町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。

西五町 にしごちょう	松本市深志2丁目 1220 先	井上の信号の北 西カド、歩道の 生垣の中	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西五町もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である本町五丁目の西に当たっているためこの名がつけられた。
西博町 にしはくちょう	松本市本庄1丁目 1090	「本庄一丁目」 交差点の南東カ ド	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西博町もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である博労町の西側に当たっているためこの名がつけられた。
花咲町 はなさきまち	松本市女鳥羽1丁 目431-15(1丁目 7番7号前)	霞町吉野産婦人 科医院から少し 北に行くと、道 の右側に立って いる。	昔は、裏町のつづきの街で、料理屋が軒を連ねていた。通りの両側には桜や柳の木が植えられていて、いつしか花咲町とよばれるようになったという。霞町になってからも地元の人達は花咲町の名前に愛着を抱いていた。
幅(巾)上 はばうえ	松本市巾上5番44 号	国道143号「巾 上」信号の西 側、犀川通船の 碑の付近	巾上の名は、慶安四年(一六五〇)の検地帳に見られ、近世庄内村の西半分を占めていた。幅(巾)は川の土砂のたい積や浸食により作られた階段状の地形といわれ、巾上はかつて田川によってつくられ、その上に位置する集落であることから起こった名称といわれる。
日ノ出町 ひのでちょう	松本市中央4丁目 1360-2	イオンモールの 南側道路沿い、 薬祖神社の東側	明治二十三年片倉組が、当時水田であった清水の地に松本最初の製糸工場を開設。その後日本の製糸業が日の出の勢いで世界へ進出していくのにもなって、同工場も明治三十三年には片倉製糸紡績株式会社へと規模を拡大し隆盛に向かった。町名の由来は、日の出の勢いで発展する片倉にあやかり、また松本市の東に位置し日の出を拝する町という意味を込めて日ノ出町と命名された。
分銅町 ふんどうちょう	松本市中央1丁目 22番22号	寿司屋「すし 典」の前の歩道	明治三十五年篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅と糸魚川街道の今町に通じる道がつけられた。その開通に功績のあった犬飼久左衛門・同孝吉父子の屋号「分銅屋」に因んで分銅町と付けられた。
放光寺 ほうこうじ	松本市城山1042- 3	城山公園の入り 口と、放光寺に 向かう道との分 岐点にある。	この地域は、近世は蟻ヶ崎村の中にあつた。町名の由来は真言宗の古寺放光寺があつたからで、蟻ヶ崎村が放光寺村と呼ばれたこともあつた。放光寺は明治の廃仏後曹洞宗として復興し、松本地方でも最古に属する県宝の「放光寺木造十一面観音立像」(秘仏)を有する。
南新道町 みなみしんどう まち	松本市大手2丁目 4番2号	飯田屋製菓あめ 店の北側	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。南新道町もそのひとつである。その名の由来は、西堀と今町を南側でむすぶ新しい道の意と考えられる。
南新町 みなみしんまち	松本市庄内1丁目 3687-イ	第二地区公民館 から南へ行き、 藤沢鉄工所のカ ドを右に曲がっ て進むと、右手 の逢新神社の前 にある。	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は家並みも続かない新開地であつた。大正三年四月に区長制がしかれ、この際に南新町と命名された。町名の由来は女鳥羽川以北の北深志の新町(江戸時代の武家屋敷町)に対して川南の親町にあたることによる。

都河岸 みやこかし	松本市大手1丁目 2番	セブンイレブン 今町店から女鳥 羽川沿いに西に 行くと、左手に 見えてくる。 「今町」の碑の 近く	都河岸の由来は定かではないが、国府巨理神社（今町）の神社名から想像して、この地を筑摩郡にあった信濃国府と、延喜の東山道「巨理の厩」と推定し、さらに遠く都と結ぶ渡し場（巨理）と位置付けて都河岸と呼んだのではなかろうか。
宮崎町 みやざきまち	松本市城西1丁目 2368-6	白板地区福祉ひ ろば前の駐車場	この地域は、近世に大部分が蟻ヶ崎村に属していたが、明治以降、旧城下町の周辺に新しい町がつくられた。宮崎町もその一つで、隣接する宮淵と蟻ヶ崎の両方から一字をあててこの名がつけられた。
宮淵 みやぶち	松本市宮淵本村8 番1号	宮淵本村公民 館、公園前（宮 淵浄化センター 近く）	宮淵の地名は、集落の北、城山丘陵の先端に勢伊多賀神社が祀られ、その南は大門沢、田川、女鳥羽川などが合流する低湿地帯であり、山際は淵をなしていたことに由来する。この地域は、二つ塚古墳などもあり、古くから人が住んでいたことがうかがえる。
向島 むこうじま	松本市本庄1丁目 897 共有地	松本大学予備校 東側道路、秋葉 神社の前	この町は大正の初期、松本城天守閣より南向うを眺めた時、薄川の手前を東西に流れる長沢川南添いに、四方を川に囲まれた地形が島のように見えたことから、向島と命名された。当時の長沢川は現在の川幅よりも約三倍ほど広く、水は一面に漂い、川面にはアヒルなどが泳いでいた。
女鳥羽町 めとばちょう	松本市女鳥羽1丁 目442-27	「女鳥羽」信号 交差点を北に進 むと、左側に見 えてくる。	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。女鳥羽町もそのひとつである。大正一二年（一九二三）、太田有親が中心になって道路を開いた。この頃から女鳥羽町といわれている。町の東側に女鳥羽川が流れているため命名されたのではないかとされている。
元原町 もとらはまち	松本市桐1丁目4 番58号	元原公民館前	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。元原町もそのひとつである。その名の由来は、古くから元原と呼んでいたのによる。原名は歌枕名所の「浅葉野」に関係するといわれている。
元町 もとまち	松本市元町1丁目 8番28号	松本砂防事務所 東口	古代、信濃国府が筑摩郡にあった時代の集落の中心部がこの付近であったという言い伝えから、元町の町名がつけられたといわれる。しかし、国府の位置はまだわかっていない。
弥生町 やよいちょう	松本市中央3丁目 1169-1	松本市美術館前 の歩道	大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、これにともなって本町角から鍋屋小路をへて松高正門までの道路が拡幅され、宮村から県町までが弥生町と名づけられ、大正十一年十一月の松本市議会で承認された。町名の由来は、道路の開通が陽春弥生の候であったのに因むという。
葎町 よしちょう	女鳥羽1丁目429- 19（1丁目8番21 号 マトバ薬局 前）	マトバ薬局前歩 道	東町から桜町までの新道は大正末頃に開かれた。まず大正十一年に単信坊への道路が整備されて葎町ができ、同十三年には作左衛門小路が拡幅され女鳥羽川までの新道が完成した。葎町の町名は、この辺りが葎が生い茂っていたことに因むという。

<p>四ツ谷 よつや</p>	<p>松本市県1丁目3 番13号</p>	<p>四ツ谷公民館の 北側の柵の中</p>	<p>この地域は明治時代には桑畑が多く、そこに四軒の家があったところから四ツ家村と呼ばれた。明治四十二年農林省蚕業試験場松本出張所の開設とともに道路が開通し、町並みが形成された。大正五年一月に四ツ家と改められ、昭和八年には四ツ谷町、金山町、四ツ谷東区に分離した。</p>
<p>両島 りょうしま</p>	<p>松本市両島79番 イ</p>	<p>西部体育館前</p>	<p>両島の地名は、この地が上島、下島の二地域からなっていたことによる。両島には足半送りという厄除け行事が伝えられている。江戸初期にアカハラ病（赤痢）が蔓延したので、村人は大きな足半を作って、村の入り口四カ所の高い木につるし、大男がいるように見せかけて疫病神を追い払ったという。</p>
<p>若松町 わかまつちょう</p>	<p>松本市埋橋2丁目 1584-11</p>	<p>「埋橋一丁目」 信号交差点、北 東側カド植え込 み内</p>	<p>大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、それにとまって周辺道路が整備され、旧松本商業学校跡から中林橋までを若松町と名付けた。町名の由来は、松は竹・梅あるいは鶴とともにめでたい取り合わせとされ、また松本の松にも通じるので、松の若葉のようにみずみずしく発展することを願って命名された。</p>

【問合せ先】

松本市教育委員会 文化財課

松本市大手3-8-13 松本市役所大手事務所3階

TEL 0263-34-3292 FAX 0263-34-3299

令和5年10月1日改訂